

令和4年度 表彰者紹介・授賞理由

木村賞

稲垣 典年 （高知県立牧野植物園）

正職員、非常勤職員の期間を通じて52年間にわたり牧野植物園で働き、高知県の野生植物に関する幅広い知識とコレクションを築きあげ、牧野富太郎の名を冠する植物園にふさわしい植栽展示と普及活動を行って来た。「ふるさとの植物を守ろう」という植物園協会の標語を文字通り実行して来た功績は大きい。

倉重 祐二 （新潟県立植物園）

長年にわたり新潟県立植物園の運営にあたるとともに、ツツジ類をはじめとするさまざまな植物の繁殖、系統保存、生息域外保全の調査・研究に取り組み、所属園を超えた大きな成果をあげてきた。植物園協会では2014年以降理事を務めるとともに、各種委員会の委員として活躍し、特にナショナルコレクションの制定、運用に主導的な役割を果たした。

植物園功労賞

宮内 元子 （渋谷区ふれあい植物センター）

企画展示やSNS等の情報発信を通じて、植物に関心のない層も含め、幅広く植物や植物園への理解、関心を深めることに貢献した。

坂崎奨励賞

令和4年度該当者なし

保全・栽培技術賞

小幡 晃 （日本植物園協会賛助会員）

野生植物の生育環境としてはあまり注目されない埋め立て地の植生に絶滅危惧種が多数生育することを示した興味深い調査である。野生植物の保全に関して、環境の変化をマイナスに捉えるだけでなく、その活用の方向性も示していることが評価できる。

小幡晃：東京湾臨海部埋立地におけるキンラン属3種の生育状況調査（日本植物園協会協会誌 56：82-93 に発表）

勝木俊雄、橋場真紀子、清水淳子、梅原欣二、藤井聖子、玉城雅範、太田幹夫、 大阪市立長居植物園

南は大阪府から北は青森県にかけての5つの会員園と会員外の3つの団体が関与するクマノザクラ保全と普及のための増殖・栽培の試験プロジェクトである。このような横断的なプロジェクトは多数の会員園からなる植物園協会の特色を示すものであり、それが立案され実施に移されたことは高く評価される。今後の進展を期待したい。

勝木俊雄、橋場真紀子、清水淳子、梅原欣二、藤井聖子、玉城雅範、太田幹夫、大阪市立長居植物園：クマノザクラの増殖と植物園などでの生育状況（日本植物園協会協会誌 55：80-84 に発表）

国立科学博物館 筑波実験植物園・植物研究部

研究者と技術職員が協力して活動している植物園らしい成果である。シダ植物を孢子から成体に育て上げることは、個人の趣味として高い技術が伝承されていると言われるものの、研究結果として技術がまとめられ、公開されることの意義は大きい。シダ植物の増殖技術として幅広い応用が期待出来る。

和知 恵子、堤千絵、中島香澄、山田佳子、小林弘美、二階堂太郎、平山裕美子、松本定、海老原淳：クマヤブソテツの孢子からの繁殖と順化（日本植物園協会誌 55：108-111 に発表）